

■キャベツによる町おこしをお手伝い ～岩手県岩手町～
「キャベツ復興録の完成と産地振興の取り組み」

新岩手農協・岩手町などの要請にもとづいて実施した「キャベツ復興録」編さん事業により、『岩手キャベツ物語』（写真中）が、平成22年12月に完成しました。また、同事業と連動して、「広報いわてまち12月号」（写真左）に、復興録のダイジェスト版が特集として生まれ、復興録の内容が、町民全体に広く周知されることとなりました。



復興録の完成と新岩手農協東部地域春みどり専門部会の日本農業賞（優秀賞）受賞を祝賀会が開催され、「農業・農村振興における歴史の意義と効用」と題し、講演をおこないました。また、復刻録の編集と執筆に対し、新岩手農協と東部地域春みどり専門部会より感謝状を贈呈されました。



平成23年2月に岩手町が主催した「豊かな農村づくりシンポジウム」では、「歴史を活かした豊かな農村づくり」と題して講演しました。同会では、昭和30年代の特産キャベツ「南部甘藍」（復刻）と「いわて春みどり」の手ぬぐいが記念品として来場者に配布されました。復興録の編さんをきっかけに発見された資料類を、産地振興の資源として活用する気運が高まってきました。



平成23年3月には、岩手町立石神の丘美術館で復興録の内容や収集した写真・資料を展示した「玉菜（キャベツ）にまつわる資料展」が開催されました。



（ご紹介）<http://blog.ishigami-iwate.jp/?eid=197>

資料展のオープニングイベントでは、20～40代のキャベツ農家・農協職員・商工会青年部員・町役場職員らによるパネル討議がおこなわれ、特産キャベツの歴史的価値を再確認するとともに、農商工連携や都市農村交流に積極的に活用するためのアイデアが提案されました。

